令和4年度

読書感想文コンクールを終えて

第 46 回校内読書感想文コンクールの審査結果を発表します。1 年生からは 206 編、2 年生からは 187 編、5 年生からは 1 編と、合計 394 編の応募がありました。教育支援センター運営委員会の教員 10 名と国語科教員 3 名による審査・投票の結果、その中から 4 名の入選作を決定しました。以下にその学生の氏名と作品名を掲げ、栄誉をたたえたいと思います。

また、惜しくも入選には至りませんでしたが、審査の過程で優れた評価を得て、最終選考に残った作品は佳作とし、その学生の氏名も併せてここに紹介します。

最優秀賞

物質化学工学科2年　原田　綾音　「普通と違うということ」(「変身」フランツ・カフカ著)

優秀賞

電気工学科1年　石原　春捺　ガネーシャの考え方(「夢をかなえるゾウ」水野敬也著)
電気工学科1年　稲冨　里咲　個性の捉え方(「片眼の猿」道尾秀介著)
物質化学工学科1年　奥村　美月　求めた無償の愛ー「母性」を読んでー(「母性」湊かなえ著)

佳作

1M　池尻　大雅	1M　岡本　優誠	1M　片山　史孝	1S　加畑　彩葉
1S　吉川　敦	1S　斎藤　琢磨	1S　山口陽香梨	1I　佐藤　清正
1I　永濱　生桐	1C　近藤　瑞希	1C　當城　優和	2M　石田　眞子
2M　上中　理央	2E　岩崎　隼士	2E　永尾　晴翔	2E　星野　百奈
2S　安藤耕太朗	2S　川端　遼	2S　松井　寿樹	2I　中辻　美憂
2C　須摩淵唯人	2C　藤澤　りの		

《最優秀賞について》

２Cの原田さんは、カフカ『変身』を取り上げています。原田さんの感想文は全体を通して、書くべき内容が厳選されており、また、簡明な文で書かれています。よくまとまった読書感想文と言えるでしょう。

原田さんは、主人公であるザムザの毒虫への変身と、ザムザの家族の態度を通して、「社会からの孤立を恐れる気持ち」と「個性を保つことの大切さ」を読み取っています。社会からの孤立を恐れて「普通」であろうとするザムザの家族と、毒虫という強い「個性」を持つザムザという二つの立場を読み取り、そこから今後の自分自身の生き方について考えを述べています。

同じ本であっても、そこから何を読み取るのか、それも人の「個性」によって変わります。読書体験は自分自身の個性の発見にも役立つことでしょう。様々な経験を通して、周囲との和を保ちながら、周囲に流されない自分の個性を大切にできる人間に成長していってください。

《優秀賞について》

１Eの石原さんが読んだ本は水野敬也『夢をかなえるゾウ』です。石原さんは高専入学を機に寮生活を送っているとのことです。親元を離れたことで学び、気づいたこともあったことでしょう。そのような経験があったからこそ、本作に登場するガネーシャの言葉に胸を打たれたところがあったのかもしれません。作品中に出てくるガネーシャの課題の中から、石原さんは特に身近な人との関係のあり方に注目し、自分の行動を見直しています。石原さん自身が「本を読んで終わりにならないように、ガネーシャの課題を意識しながら学校生活を送っていきたいです」と言うように、読書を通して気づいたことや感じたことを実行に移していき、身体性を伴った経験を積み重ねていってほしいと願います。

１Eの稲冨さんが読んだ本は、道尾秀介『片眼の猿』です。左眼しか持たない猿の国に生まれた、両目を持つ猿。周囲から容姿を蔑まれた結果、その猿は右眼を潰して周囲と同一化していきます。これがタイトルにもなっている「片眼の猿」の民話です。この民話に対する主人公の言葉から、稲冨さんはSNSの普及により、人間の個性（猿の右眼）が失われてきているという実感を抱いたようです。さらに、本作には特徴的な外見を持つ人物が多く登場します。彼らはその外見を個性と捉え、それを強みに変えて生きています。本作のこのような力強さに、稲冨さんは勇気をもらったと言います。同じ事柄でも、見方を変えることで世界は大きく変わります。読書を通して視野を広げ、胸を張ってこれからの人生を歩んでいってほしいものです。

１Cの奥村さんが選んだ本は湊かなえ『母性』です。奥村さんは特に作中の母と娘のすれ違いに注目しています。両者ともに相手を思いやって行動するのですが、その行動の意図が相手に伝わりません。この二人が共通して持つ理想の「愛情表現」は、祖母（母の実母）による愛情表現でした。奥村さんは、祖母による愛情表現と、母親による愛情表現とを対置させることにより、なぜ娘が母親からの愛情を感じ取れなかったのかを分析しています。自分なりの解釈を持ちながら作品理解を深めており、母娘間の「愛」のあり方を検討しています。漫然と読むのではなく、問題意識を持って読むことは文献分析の第一歩です。ぜひ今後も継続し、読書を通して思考力や想像力を養っていってください。

《全体について》

今回の読書感想文では、読書を通して「個性」や「自分の生き方」を貫くことの大切さを書いているものが多かったように思います。しかし、読書は読んで終わりではありません。読みながら何を考えましたか？どんな発見がありましたか？引っかかるところはありませんでしたか？疑問に思ったことはありませんでしたか？

ぜひ興味と問題意識を持って読書を体験してください。気になった所は別の文献を読んだり、同一作家の別の作品を読んだりしてもよいでしょうね。芋づる式の読書は、読書へのハードルが低くなり、楽しんで読めるきっかけにもなると思います。さまざまな読書体験をした皆さんから、来年はさらなる力作が投稿されることを期待しています。

（国語・松井）